

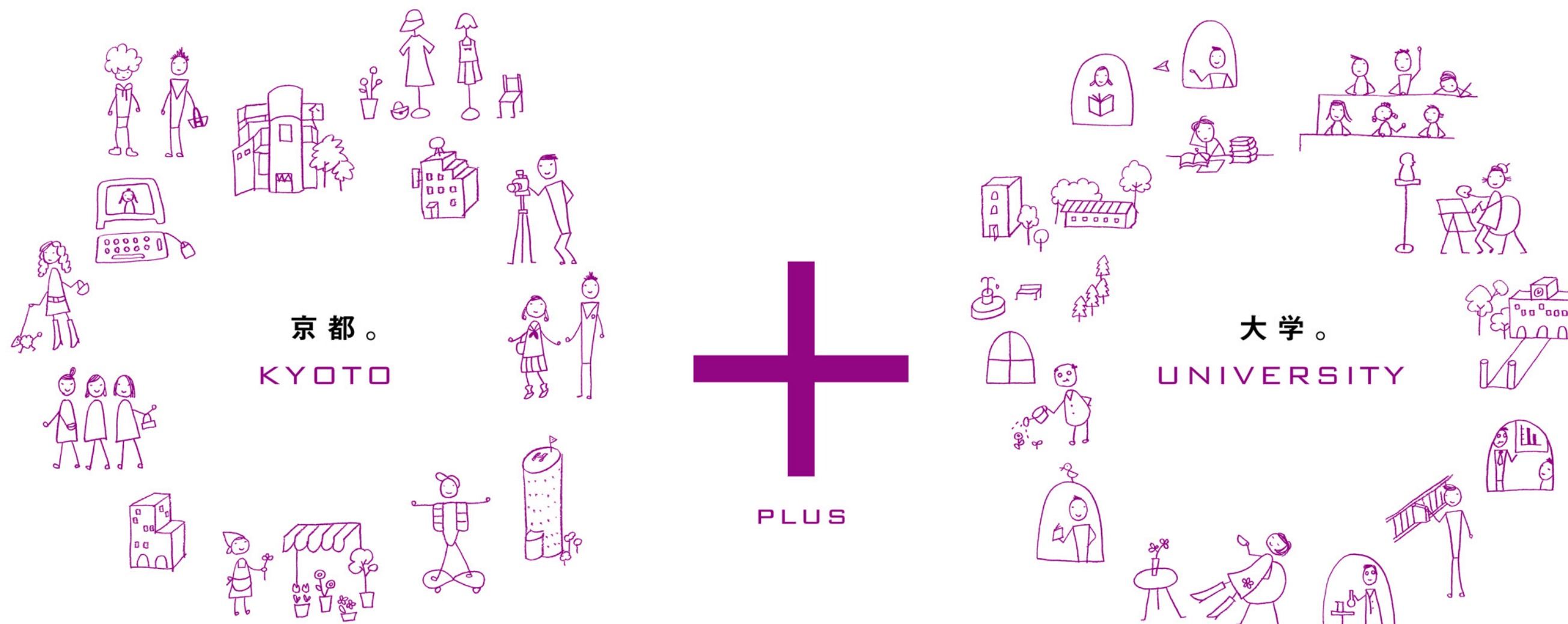
特定非営利活動法人
京都文化維持・推進協会
<http://karasuma.univnet.jp>



京 都 カ ラ ス マ 大 学

見えないけれど、
そこにある。

この「街」のいいところと「大学」のいいところ、
どっちも取り入れる。
私たちの名前は、そのまま私たちの理念です。



そこには、古くからあるお店や人の繋がりがあり、
新しいカルチャーやビジネスが生まれています。
あらゆるジャンルの様々なエネルギーが集まって、
つねに何かが生み出されているこの街は、
つまり、他には例を見ないほど「魅力的な人」の宝庫なんですよ。

そこには、「お金」とは別の価値観があったり、
世の中よりゆっくりな時間があったり、広々とした空間があったり、
そういう場所だからこそできる研究や教育があったり……。
知性や好奇心に対する雄大なスタンス、学びたいなと思いました。

京都カラスマ大学には、
校舎がありません。この「街」が、
まるごとキャンパスです。

大学・専門学校



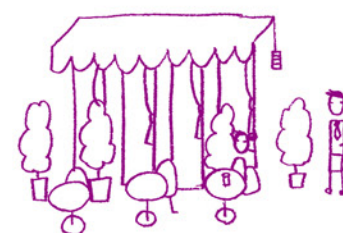
町家



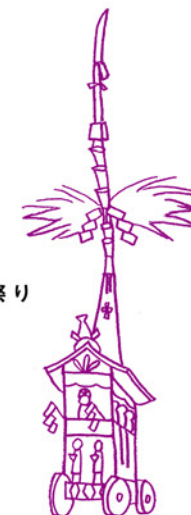
国際マンガミュージアム



カフェ・レストラン



祭り



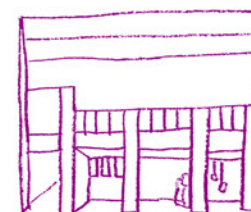
小中学校



企業



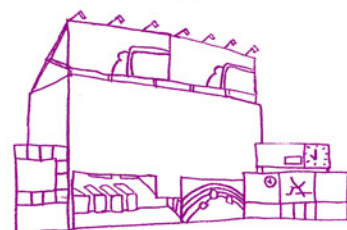
クラブ・ライブハウス



お寺



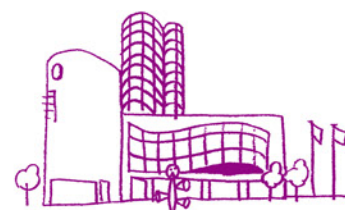
駅



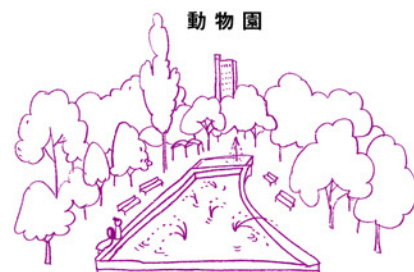
書店



ホール



動物園



京都市役所



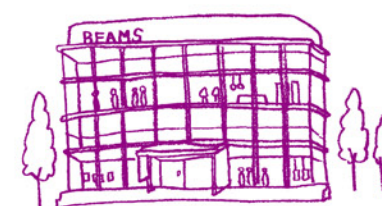
神社



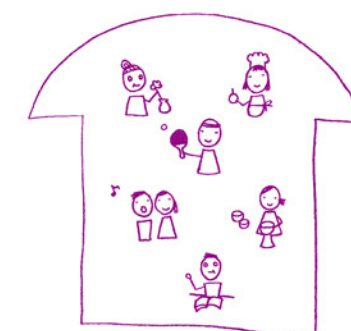
京都タワー



ショップ



市内社会教育館



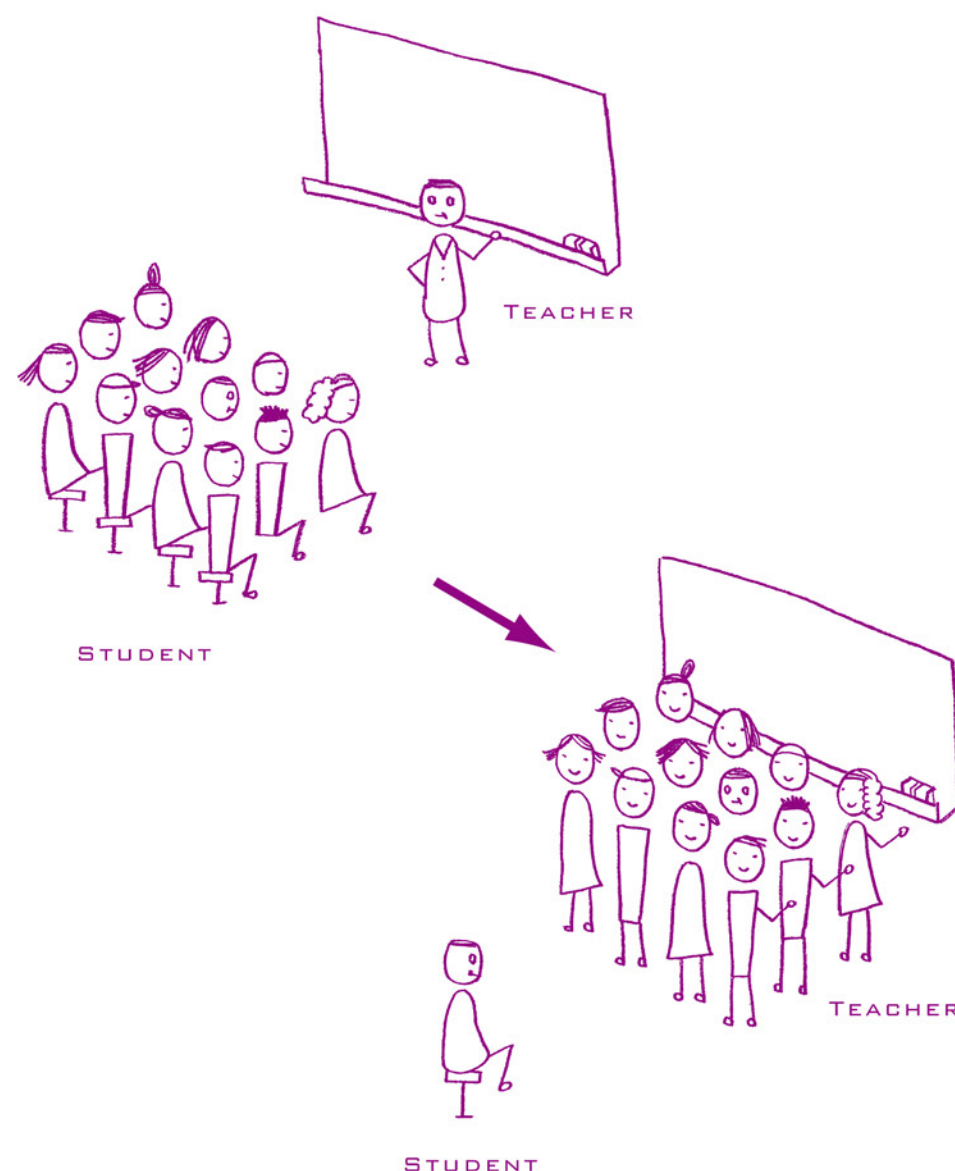
時には町家、時には国際マンガミュージアム、時には大原の農村。

街じゅうの施設と提携しながら、カリキュラム単位で変わる教室。

学びたい洛内の、全国の、世界の人々が京都に集う。

いわば、京都のすべてがキャンパスです。

京都カラスマ大学の場合、
生徒は、先生にもなれます。



教える人は生涯教える人。教わる人は生涯教わる人。

役割の決まりきった教育ではなく、

「教える」と「教わる」を自由に行き来できる教育。

考えてもみてください。教えるとなったら、ものすごく勉強してしまうだろうし、

教えることで、はじめて教わることもきっと沢山あるはずです。

たとえば、こんな授業に
なるのではないのでしょうか。



「食育」は誰もが初心者。

「京野菜がわたしの口に届くまで」

先生:地元有機農家さん



日々できるエコ活動。

「わたしの極秘ゴミ分別術」

先生:新米お母さん(市内在住)



子どもが考える伝統文化。

「ぼくのお父さんは13代目」

先生:男子小学生(市内小学校在学)



わからない、と言う
先生がいてもいい。

「女子高生から見た京都の歴史、ここが分かりません!」

先生:女子高校生(市内高校在学)



お年寄りの豊かな経験に
耳を傾ける授業。

「囲碁から学ぶ、勝利の哲学」

先生:囲碁クラブ代表



大人こそ、体育を。

「僕は山が大好きです」

先生:街のおじさん(個人商店経営)



有言実行のための
場にもなる。

「わたしの夢は、とめられない」

先生:女子中学生(市内中学校在学)



指先を使うのも、立派な体操。

「頭と体の関係。ルービックキューブ3分完成術」

先生:ゲームの達人(市内おもちゃ会社勤務)

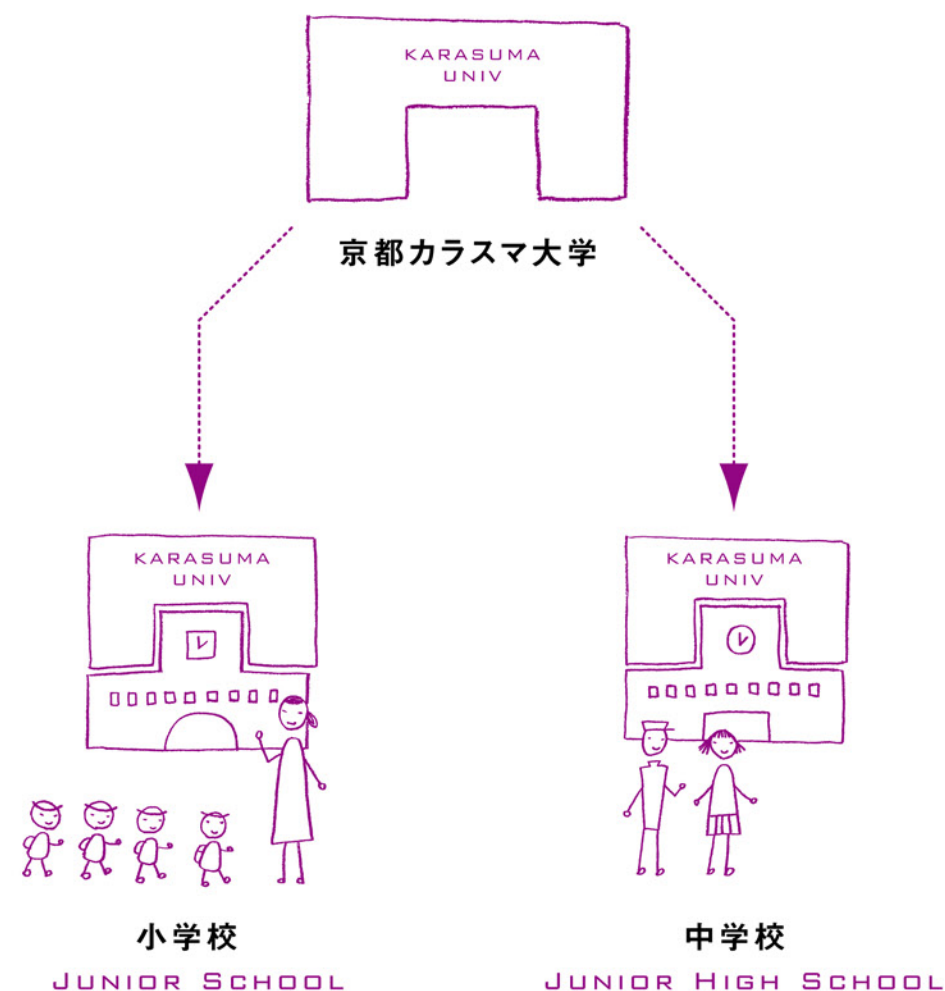
この「街」に住んでいる人か、働いている人から、

年に数回、HP上でユニークな授業を公募。

街に眠っている「才能」や「経験」をつねに発掘していきます。

審査委員会による審議後、面談を経て、晴れて先生に。

小学生のための、
大学になります。
中学生のための、
大学にもなります。



京都市内の小学校や中学校からの要望を聞き、
京都カラスマ大学が、かつてない授業をプロデュースします。
企業とのコラボレーション授業あり、
NPOやNGOとのコラボレーション授業あり……。
くわしくは右ページをご覧ください。

企業との
コラボレーション授業



会社や工場などを見学



企業から、業務に関連する
分野の講師を派遣

NPO/NGOとの
コラボレーション授業



NPO/NGOから、
その取り組みに関連する
分野の講師を派遣



NPO/NGOの活動に参加

プロスポーツチームとの
コラボレーション授業



野球



サッカー

いろんな分野のトップランナーが講師に



デザイナー、クリエイター、学者、スポーツ選手



働く大人を間近に見ること。

モノが生まれる工程の、音や匂いを知ること。

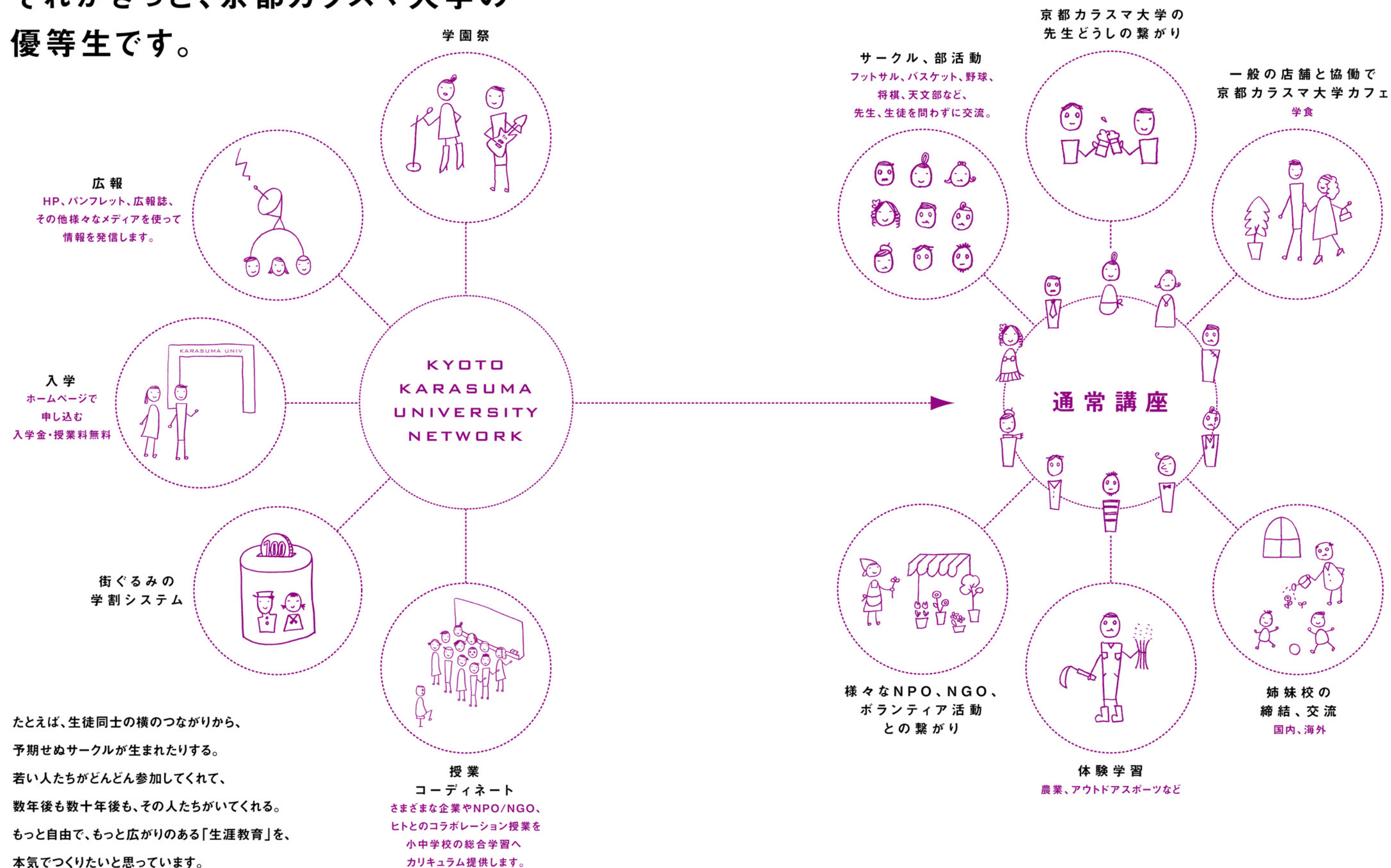
NPOやNGOの活動に参加して、汗を流すこと。

子どもたちには、できるだけ新鮮な方法で

「生の社会」に触れてもらいたい。そのための、

さまざまなプログラムをつくり、セッティングします。

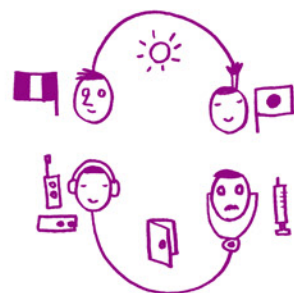
いつまでたっても卒業しない。 それがきっと、京都カラスマ大学の 優等生です。



京都カラスマ大学が夢見る、 これが街の未来予想図。



若者も地域の
お祭りや行事に
参加する街になる。



交換留学生や
交換職場体験が
さかんな街になる。



日本中のどこよりも、
子どもが増えはじめる
街になる。



世界中の
観光客が、
緊張しない
街になる。



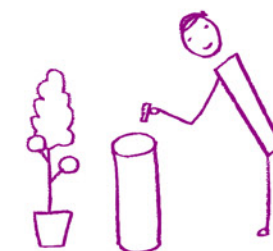
アートはあるが、
落書きはない
街になる。



公園の芝生で、
ゴロゴロできる
街になる。



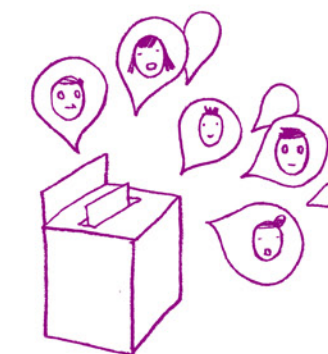
お年寄りの
知恵と経験を
尊重できる
街になる。



ゴミ拾い運動の
いない
街になる。



他人の子を
叱る人も、ほめる人も、
いる街になる。



選挙に行くことが、
あたりまえの
街になる。



ペットのことも、
住人と考える
街になる。



ゆっくり
歩きたい人が、
せかされない
街になる。



「産・学・行・民」の
代表が集まって、
会議をする
街になる

京都カラスマ大学の遠い目標は、
この「街」に関わるすべての人と、関わること。
そして日本のすべての街の、いいお手本になること。
「壮大すぎるよ」と笑われるかもしれませんが、私たちの大学が、
やがては、街づくりのひとつの大きな起点になれば、
それ以上の幸せはありません。

あなたがいれば、
カタチが変わる。



京都カラスマ大学は、
ネットワークですから。

「街」と「大学」

ひょんなことから、ふたつをくっつけてみると……。
「あれもできる」「これもできる」と一気にアイデアが広がって、
それが驚くほど順調に、ひとつの事業になりました。

2008年10月は、京都カラスマ大学の完成ではなく、あくまでもスタート地点。

これからも、いろいろな人々に参加してもらうことで、
カタチを変えていきたい私たちです。

見えないけれど、そこにある。

京都カラスマ大学、開校。

